

中学部の各教科の改訂の内容はどのようなことか。

① 国語科の改訂の要点

- コミュニケーション能力を重視し、年齢段階を考慮してそれらを活用することが重要であるという視点から、目標を「日常生活に必要な国語についての理解を深め、伝え合う力を高めるとともに、それらを活用する能力と態度を育てる。」と改めた。
- 内容は、「聞く・話す」、「読む」、「書く」の各観点について、生徒の知的障害の状態等を考慮し、より分かりやすくする視点から改めた。
- 『聞く・話す』では、従前の「話の内容を大体聞き取る。」を、話を大まかに聞き取るという程度が生徒の実態に即していることを明確にする視点から、「話のおよその内容を聞き取る。」と改めた。また、小学部3段階の内容との関連を考慮し、より幅広い指導内容を設定できるようにする視点から、「見聞きしたことなどを相手に分かるように話す。」を「見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などを相手に分かるように話す。」と改めた。

② 社会科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮するとともに、近年の情報社会の状況等を踏まえ、具体的な指導内容が設定できるよう内容を改めた。
- 『集団生活ときまり』では、より具体的な指導内容を設定できるよう、「集団生活の中での役割を理解し、自分の意見を述べたり、相手の立場を考えたりして、互いに協力し合う。」と改めた。
- 『社会の出来事』では、生徒の日常生活において、各種の情報を入手することが重要になってきていることから、「日常生活で経験する社会の出来事や情報メディアなどに興味や関心をもち、生産、消費などの経済活動に関する初歩的な事柄を理解する。」と改めた。

③ 数学科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮し、より幅の広い指導内容が設定できるようにする視点から内容を改めた。
- 『数と計算』では、日常生活につながる指導内容を設定しやすくするため、「日常生活における初歩的な数量の処理や計算をする。」と改めた。
- 『図形・数量関係』では、「図形の特徴や図表の内容を理解し、作成したりする。」の「作成」に幅広い内容が含まれていることから、「作成したりする。」を「作成する。」と改めた。
- 『実務』では、指導内容に幅をもたせられるよう、「時計・暦」を「時計・暦など」と改めた。

④ 理科の改訂の要点

- 自然に関する事柄だけではなく、事物や機械・器具などに関する事柄の指導が重要であることや、生徒の知的障害の状態等を考慮した科学的な見方などの指導も重要であることから、「日常生活に関係の深い自然の仕組みや働きなどに関する初歩的な事柄についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養うとともに、自然を大切にすることを育てる。」と改めた。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的な活動を設定しやすくする視点から内容を改めた。
- 『生物』では、生物の成長の状況だけでなく、生物そのものの形状等の特徴などにも関心を深めることが重要であることから、「身近な生物の特徴、その成長及び活動の様子に関心をもち。」と改めた。
- 『事物や機械』では、日常生活における活動を重視するため、「身近な事物や機械・器具」を「日常生活に関係の深い事物や機械・器具」と改めた。

⑤ 音楽科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮し、例示を増やすなど、より具体的な指導内容を設定できるようにする視点から、内容を改めた。
- 『鑑賞』では、ふだん聴いたことがない音を聴くことも大切であること、また、より具体的な指導内容を設定できるようにするため、「いろいろな音楽を楽器の音色などに関心をもちて聴く。」と改めた。
- 『器楽』では、様々な楽器にかかわれるような指導内容を設定できるようにするため、「打楽器や旋律楽器などを使って、自由に演奏したり、合奏や独奏をしたりする。」と改めた。

⑤ 美術科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的発達の状態等を考慮し、より具体的な活動が設定しやすいように、内容を改めた。
- 『表現』では、生徒の知的障害の状態等を踏まえ、活動の目的を明確にするため、「経験や想像をもとに、計画を立てて、絵をかいたり、作品をつくったり、それらを飾ったりする。」と改めた。
- 『鑑賞』では、美しさだけではなく、表現や形状の面白さにも関心も持つことが必要であることから、「自然や造形品の美しさなどに親しみをもつ。」と改めた。

⑥ 保健体育科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的な活動を設定する視点から、内容を改めた。
- 『きまり』では、きまりとルールを区分して具体的な指導内容を設定しやすくする視点から、従前の「きまりや簡単なルールなどを守り、互いに協力して安全に運動する。」の前半部分を「きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、」と改めた。また、平易に、かつ、分かりやすくするため、後半部分を「友達と協力して安全に運動をする。」と改めた。

⑦ 職業・家庭科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮し、より具体的に活動を設定できるようにする視点から、内容を改めた。
- 『働くことの意義』では、学校での作業や産業現場等における実習などにおける体験を重視することから、「働くことに関心をもち、作業や実習に参加し、働く喜びを味わう。」と改めた。
- 『道具・機械等の取扱いや安全・衛生』では、材料の取扱いに関する指導も重要であることと、食品を扱う際など、衛生に関する事項の指導が重要であることから、「道具や機械、材料の扱い方などが分かり、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。」と改めた。
- 『家庭に関する基礎的な事項』では、より具体的に指導内容を設定できるようにするため、「被服」、「食物」、「住居」をそれぞれ「衣服とその着方」、「食事や調理」、「住まいや暮らし方」と改めた。
- 『情報』では、他の教科との用語の統一を図り、「情報機器等」を「コンピュータ等の情報機器」と改めた。
- 『余暇』では、中学部の段階では、主として家庭生活における余暇の過ごし方を知ることが重要であることから、「家庭生活における余暇の過ごし方が分かる。」と改めた。

⑧ 外国語科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 生徒の知的障害の状態等を考慮し、生徒にとってより身近な英語に親しむ視点から、内容の一部を改めた。
- より具体的な指導内容が設定しやすくなるよう、観点の『英語への興味や関心』を『英語とその表現への興味や関心』と改めた。
- 『英語とその表現への興味や関心』では、より实际的に、生徒の身近な生活の中で見聞きする英語として取り上げるために、「身近な生活の中で見聞きする英語に興味や関心をもつ。」と改めた。